

會員死亡者 正會員 飯島謔男君 (大正 15 年 11 月 2 日) 准會員 小川榮吉君 (大正 15 年 11 月 9 日) 同河越利夫君 (大正 15 年 11 月 30 日) 以上三氏の逝去せられたるは誠に哀悼の至りなり茲に謹で弔意を表す。

圖書寄贈交換 朝鮮鑛業會會報 46 ○海防義會研究報告 24 ○滿洲技術協會誌 3の15 ○地學雜誌 83の451 ○日本標準規格 14—24 ○金屬の研究 3の9 ○工業と社會 28の7 ○大日本窯業協會雜誌 34の405 ○東京帝國大學工學部紀要 16の11 ○鞍山鐵鋼會雜誌 20 ○日本化學會誌 47の9 ○通商上の障礙と認むべき事項書 ○名古屋工業會會報 42 ○理化學研究所彙報 5の10 ○日本工學輯報抄録 13 年4 卷 ○工業 3 ○工政 83 ○京都帝國大學工學部紀要 4の3 4の4 ○造船協會雜誌 54 ○石炭時報 3の7 ○建築雜誌 40の486 ○Engineering 14の10 ○工業雜誌 62の790 ○日本鑛業會誌 42の497 ○機械學會誌 29の113 ○工業評論 12の9 ○朝鮮鑛業會誌 9の3 ○大阪能率研究會誌 1の7 ○工業化學雜誌 29の10 ○駿工 2の10 ○表彰發明の解説 15 年 9 月版 ○製鐵所參考資料 24 製鐵所研究所報告 VoL. VI. No. I ○日本工業要録 2の8 ○特許公報 968—980 ○地學雜誌 38の452 ○電氣製鋼 2の10 ○法學博士水野鍊太郎氏の歐米視察談 ○土木學會誌 12の4 ○工業之大日本 23の10 ○電氣學會雜誌 459 ○電氣評論 14の10 ○經濟資料 12の10 (加奈陀太平洋鐵道の沿革、其一) ○燃料協會誌 49 ○機械學會誌 29の114 ○大日本窯業協會雜誌 34の406

佛 國 製 鐵 業 現 況

(10 月 14 日附在佛、石井大使報告)

佛國製鐵業は逐年隆盛となりつゝありて、本年 8 月の其產出額鑄鐵 813,503 噸、鋼鐵 704,447 噸にして、鑄鐵の產出高としては未曾有の產出高を示し、鋼鐵の產出月高としては本年 3 月及 7 月の產出高のみが前記 8 月分を超過せる有様なり。以下統計表に依り本年上半期成績を、昨年度の夫に比較して其發達の程度を示さん。

	1926 年度上半期	1925 年度上半期 に對する其增加率		1,926 年度上半期	1925 年度上半期 に對する其增加率
鑄鐵產出高	4,593,348 噸	12.2%	鐵鑛石輸出高	5,191,151 噸	1.0%
鋼鐵同	4,097,680 噸	14.4%	熔鑛爐鐵 鑛石消費高	12,434,719 噸	11.4%
鐵鑛石掘出高	18,834,357 噸	9.2%	鑄鐵輸出高	334,075 噸	0.45%
鐵鑛石輸入高	654,020 噸	21.9%			

右の外鐵半製品產出の増加は頗る顯著にして、昨年度の 927,014 噸より 1,041,934 噸に達したるが、發達の度の最大なるは完製品に屬するもの、殊に鐵板、レール、チューブ等にして、鐵板の輸出の如きは倍加せり、反之鐵及鋼鐵屑の輸出は本年初頭に輸出量を制限せる爲、其 7 分の 6 を減じたり。尙前記諸統計を 1,913 年度に於て、同一地域内に於て產出せられたる鐵產出高に比較するに、鑄鐵は略同一鋼鐵は 15% の増加を見たり。

鑄鐵は其產出増加は殆ど全部熔鑛爐產出に係るものにして、1,924 年以來の電氣熔鑛爐衰退の形勢は、本年度に入りて一轉して稍々活氣を呈するに至り、昨年度上半期に比し 3,351 噸の増加を示せり。

鋼鐵に付ては Martin 鋼が總產出額の 29.4% にして、昨年上半期の 28.4% に比し稍々増加 (即ち 91,400 噸の増加なり) せるに反し、Thomas 鋼は 69.2% より 68.6% に減少せるも、大體に於て製鐵技術に變更を見ざりし地方は Thomas 鋼 Martin 鋼何れも同程度の產出増加なり。熔鑛爐に依る鋼鐵並電氣に依る鋼鐵に付ても、Thomas, Martin と同様の關係あるが、唯電氣に依る鋼鐵は南東佛蘭西に於て稍々増加し、反之 Bessemer 鋼は一般殊に北佛、南西佛に於て生産の減少を見たり。最後に佛國製鐵業の現況を地方的に觀察するに、昨年度上半期に比し東部佛蘭西 230,000 噸、ロレーヌ 110,000 噸、北部佛蘭西 115,000 噸、中部佛蘭西 33,000 噸、西部佛蘭西 32,000 噸の產出増加を示し、南部佛蘭西のみは變更なし。即ち發展の最著しきは北佛にして、昨年度に比し 25% の増加なり。東佛の產出額は佛蘭西全產出額の 71.15% にして、昨年上半期の 71.9% に比し輕微なる減少を見たるが、之昨年度の 12.4% に比し本年度は 13.7% に増加せる北佛製鐵業發達の結果なり。此事情並北佛の Martin の勢力伸張が本年上半期の特色たるべし。